

2021 年 6 月 30 日

実践女子大学・実践女子大学短期大学部

教員研修 成果報告書（Web 公開用）

1. 所属	文学部 英文学科
2. 職名・氏名	教授 島高行
3. 研修期間	2020 年 4 月 1 日 ～ 2021 年 3 月 31 日
4. 研修先機関（国名）	東京都立大学人文社会学部人文学科 （国内）
5. 研修課題名	世紀転換期の英米文学・文化交流研究
6. 研修経過 （月単位で記載してください） 例）4 月上旬～5 月下旬：	4 月上旬から 8 月下旬 コロナのため、研修先の大学も閉鎖となり、指導の先生とメールで連絡を取りながら、自宅で研修を行う。研究対象は 19 世紀ロンドンの下水道整備と世紀転換期の小説について。 9 月上旬から 1 月下旬 研修先の大学で研究室を貸与されたので、大学研究室および大学図書館で研修を行う。また研修課題に関連する授業に参加する機会を得た。英米文学のマニエリスムを中心に研究する。 2 月上旬から 3 月下旬 主に研修先の研究室で、研修を続ける。これまでの研究をまとめる作業を行う。
7. 本研修で得られた成果等（論文・学会発表含む）	「機械としての名探偵：シャーロック・ホームズと「数への還元」」吉田朋正編『照応と総合：土岐恒二個人著作集＋シンポジウム』（小鳥遊書房、2020 年）所収。
8. 所感	コロナのため、当初は外出もままならず、自宅で研修するほかなかったが、後期以降は学科の書庫を利用できるようになった。また個人研究室の使用を許可されるなど環境を整える配慮を研修先からいただいたおかげで、十分に研究活動を行うことができた。吉田朋正先生をはじめ受け入れてくださった東京都立大学の皆様、授業に参加させていただいた高山宏先生に感謝する。 じっくり研究する時間をいただいたことを実践女子大学に感謝し、その成果を今後の教育研究活動に活かしていきたい。